

## 青山 AWC 第 1 期 (2017 年 11 月着任) チューターからの歓迎コメント

(A.T.さん) 書くこと自体、とても負荷の大きい作業です。負荷を小さくするには『助け』をもらうことが必要です。それは誰にでも、どんなことにも共通していることです。書くことにつまずいたら、一人で悩まずに AWC に来てください。なぜ文章が広がらないのか、どうすればもっといい文章になるのか…いろいろ話しているうちに助けとなるヒントが見つかるはずです。これなら書ける！という自信を一緒に育てていきましょう。

(H.H.さん) うまく書けるようになるためには、うまく読解できる力がついていなければなりません。アカデミックスキルとして、読み書きの両方が向上するような支援をしてあげたいと思っています。

(A.K.さん) 法人企業に勤務し、社会人として経験を積んだ後、大学院に入学しました。そのため、アカデミックライティングの支援をしながら、学生さんのアカデミックマナーや言葉遣いについて、丁寧にアドバイスします。

(K.K.さん) 本業の大学院での研究の興味につながるためか、コピペ防止に関心があります。自分の文章表現と、他者の文章表現は、必ず違っているはずです。コピペで立派な文章が原稿に加えられたとしても、自分の文章では浮いてしまいます。引用文の書き方をじっくりと教えて、原稿で自分の論考がうまく展開できるよう、支援していきたいです。

(M.K.さん) アカデミックライティングの難点として、論旨がうまくまとまらなかったり、論点がわからなくなったりする場合があります。支援では、文法の用法を一緒に確認して、さらに段落のつながりや、一行一行の文章の長さなどを検討するほか、接続詞もうまく工夫して、首尾一貫した原稿になるようにアドバイスします。

(N.I.さん) どこから書けばよいのか、何から書けばよいのか、という問いかけに迷ったら、まずは、課題で求められている内容とともに、形式や体裁を確認してみましょう。支援を通じて、アカデミックライティングの作法を学んでもらいたいと思います。



(K.O.さん) 日本への留学生として、同じように青学に留学している後輩のライティングを支援できることとなり大変うれしいです。些細なことでも構いませんから、どのように書いたらよいか悩んでいたら、アカデミックライティングセンターへ相談にいらしてください。

(K.S.さん) 高校の国語教員として教鞭を執ることもしてきた私ですが、それを踏まえて改めて感じるのは、高校と大学とでは授業で求められる執筆能力や技術に随分と隔たりがあるということです。レポートなどの課題を通して、その隔たりに戸惑っている方はきっと多いことでしょう。皆さんの大学の先輩として、多少なりとも書き方のコツをお伝えすることができればと思います。どうぞ気軽に AWC を訪ねてみてください。

